

本 叢 舍 學 海 臨

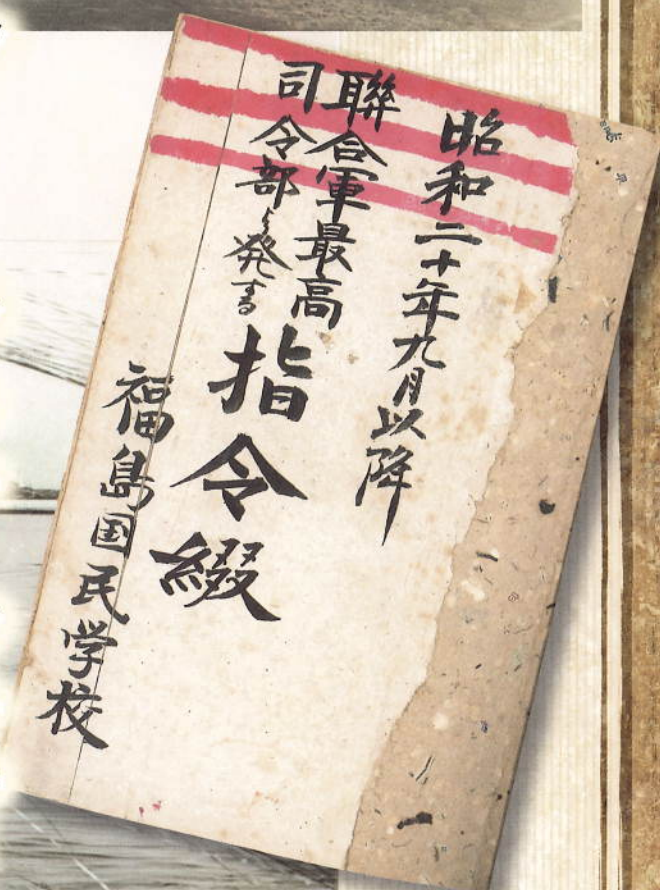
卷 下



校 學 小 常 尋 神 明



# 学校の公文書



令和4年8月2日(火)~10月23日(日) 入場無料

徳島県立文書館 2階展示室

開館時間 午前9時30分~午後5時

休館日 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)・毎月第3木曜日



文化の森総合公園

徳島県立文書館

Tokushima Prefectural Archives

〒770-8070 徳島市八万町向寺山

TEL.088-668-3700/FAX.088-668-7199

<https://archive.bunmori.tokushima.jp>

展示解説

- 8月21日(日)
- 9月19日(月・祝)
- 10月13日(木)

いずれも  
13時30分~  
14時30分

## ごあいさつ

地域社会を持続させていくためには、次世代の人々を育てていくしかない。そのため人を育てる学校の多くは、社会に必須の行政機関であり、学校運営を進めていくために作成される文書は教職員を含めて公務員が作成した公文書ということになる。

当館では、徳島県立学校の公文書はもとより、徳島県内の学校から史料の保存を求められた場合、検討しながら預かってきた。そうした史料を利用して、平成27年には「写真資料に見る学舎の面影」展、平成21年には「写真と文書で見る徳島工業高等学校史」展、平成18年には「学校の宝物」展、平成9年には「校誌の世界 徳島県下の学校誌」展と4回の企画展を開催して、学校史料の価値を考えてきた。学校にはそれぞれその地域性や歴史から個性があり、その文書は歴史的・文化的価値の高い史料群であるといえる。

この度の企画展では、学校の公文書を正面から取り上げて展示を行うこととした。公文書の展示は難しいという感想を持つ方もあると思うが、じっくり読み進めていただければ、案外興味深い内容に行き当たると確信している。

近年は社会として少子化が進み、学校の統廃合が進む中で、徳島県内でも十分な歴史資料の保存が行われてきたとは言えないかもしれない。それでもこうした形で企画展が開催できることは、史料を残そうという意思を持つ方の多大なご協力があったからである。末筆ながら、貴重な史料を提供していただいた関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

令和4年8月2日

徳島県立文書館 館長 金原祐樹



明神小学校「昭和41年度 校内体育行事記録」より

## 徳島県立工業学校

徳島県立工業学校は、明治 35(1902)年 11月に設置が認可され、現在の徳島市中前川町に校舎が新築された(現在は徳島中学校の校地)。開校時は染織科と木工科の2科であった。その後、昭和 14(1939)年に徳島市加茂町北矢三(現・徳島市北矢三町)に移転。戦後に県立徳島工業高等学校と名前を変え、平成 21(2009)年からは徳島東工業高等学校・水産高等学校と再編統合し、徳島科学技術高等学校として11コースと定時制を擁する充実した学舎となっている。

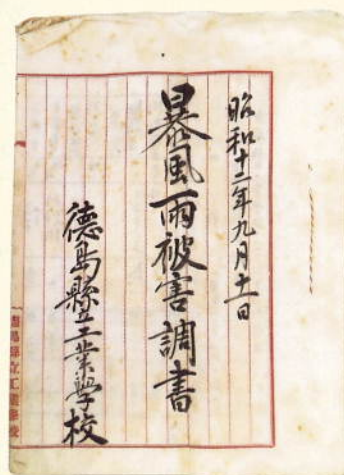


前川時代の徳島工業学校

### 台風の襲来—昭和 12 年 9 月 11 日—

昭和 12(1937)年 9 月 11 日、高知県西部に上陸し、四国を縦断した台風は、全国で死者 73 名、行方不明者 11 名の被害があった。徳島県内でも大雨のため河川の増水が甚だしく、水稻・桑・果樹でも多額の損害があり、死者 5 名、家屋の全壊 370 戸、床上床下浸水 804 戸、堤防破損 186 箇所にとんだ。

徳島県立工業学校でも校舎等の損壊があり、その概要が「暴風雨被害調査」にまとめられている。これによれば、校舎・建築科材料置場・木材工芸科材料庫・柔道場・食堂・寄宿舍などの窓ガラス・屋根瓦・板戸・壁板に被害が及んでいた。校内の平面図も付されており、寄宿舍も学校の敷地内に建てられていたことがわかる。被害総額は「三千百七拾八円拾銭」であったと記されている。



「暴風雨被害調査」(表紙)

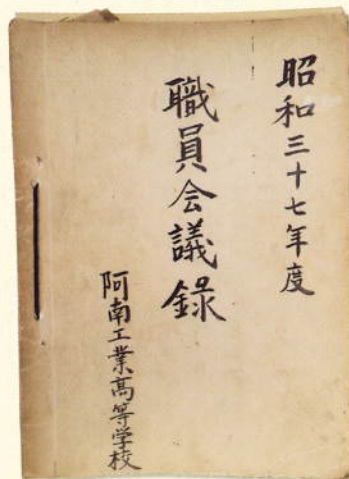
## 徳島県立阿南工業高等学校

徳島県立阿南工業高等学校は、昭和 36(1961)年 10 月の徳島県教育委員会告示第 20 号をもって発足し、翌 37 年 4 月に開校した。1 学期の間は富岡西高等学校の校舎を借りてのスタートだったが、当初の機械科・工業化学科に加え、翌年には電気科・土木科を増設するなど、次第に充実した。平成 30(2018)年 4 月に新野高等学校と再編統合して阿南光高等学校となっている。

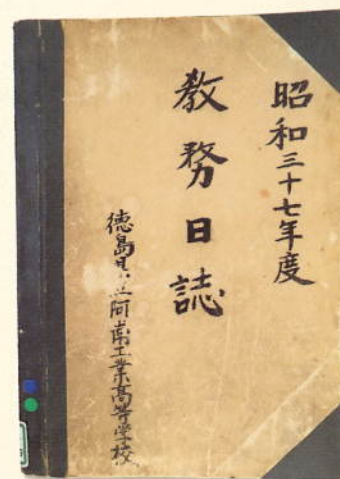
### 開校の熱意—昭和 37 年 4 月—

阿南工業高校が創立されたのは、高度経済成長が緒についた昭和 37(1962)年 4 月のことである。その年の「職員会議録」には、「新しい抱負」をもち、「研究的態度で、研究テーマを持って進んでゆく」ことや、「10 年先を目標」に据えることなどが語られている。

同年の「教務日誌」には、9 月 7 日に引越しに関する諸注意と新校舎の見学、翌 8 日に富岡西高校講堂で「歓送式」、そして 9 日に新校舎への移転作業があったことが記されている。



「職員会議録」(表紙)



「教務日誌」(表紙)

## 徳島県の水産教育

昭和 11(1936)年、旧制海部中学校(後の日和佐高等学校)内に徳島県立水産学校が併設され、徳島県の本格的な水産教育は始まる。日和佐高等学校の水産科に編入された時期もあったが、昭和 27(1952)年に分離独立し、本県の水産教育を牽引してきた。70 年余りの歴史を誇ったが、平成 21(2009)年 3 月に閉校。徳島工業高等学校・徳島東工業高等学校と再編統合され、現在は徳島科学技術高等学校となっている。

## 水産高校実習船のあゆみ

水産高校を語る上で欠かせないのが、実習船の存在である。当館が所蔵する、130 点近くの水産高校の公文書の多くは実習船関連のものである。

開校当時から活躍した初代「青雲丸」は 5 トン程度(※総トン数=重量ではなく容積)。その後、2 代目青雲丸(12 トン)・「白鷹丸」(19 トン)と続く。昭和 27 年に着任した渋谷次郎校長は、当時まだ体育館もない状況であったが、「校舎の拡充よりも大型実習船の早期建造」を掲げ、奔走した。その結果、昭和 30(1955)年に初代「阿州丸」(342 トン)が建造され、白鷹丸に加えて 2 隻の所有となった。10 年後には 2 代目の阿州丸(399 トン)が造られ、氷蔵から凍結というマグロ流通の変化への対応が可能となった。

白鷹丸に代わり「第二阿州丸」(95 トン)・「開洋丸」(285 トン)と建造が続き、実習の幅が広がったが、オイルショック等の影響により 2 隻の運営が厳しくなったため、昭和 54(1979)年、1 隻に集約する形で 3 代目阿州丸(497 トン)が建造された。この頃から、国際情勢の悪化により、操業場所がベンガル湾・インド洋からハワイ沖に変わっていった。

平成 4(1992)年に新造された 4 代目阿州丸(459 トン)の時代に水産高校は閉校を迎える。再編統合された現在の 5 代目阿州丸は 19 トンと大幅に縮小されている。



## 多くの尽力によってできた講堂兼体育館

大型実習船を手にした水産高校であったが、独立当初からのもうひとつの悲願は、講堂兼体育館の建設であった。建設費用は当時の金額で約 1,700 万円。寄付金を募る趣意書によれば、その内の 1,000 万円を寄付で賄う計画だった。暑中見舞い発送用リストからは、県内の漁業組合を始め、大阪・長崎・神奈川など県外の漁業関連会社にも広く働きかけていたことがわかる。しかし寄付金集めは難航したようで、在校生の生命保険加入を寄付の条件とした保険会社からの打診について、PTA で検討したことがわかる資料が残っている。

こうした尽力により、水産高校の講堂兼体育館は昭和 41(1966)年 3 月に完成する。完成直前には昭和 40 年度の卒業式が挙行政され、4 月に創立 30 周年記念式典とともに落成式が開催されている。長年の願いが成就した、喜びあふれる瞬間だったに違いない。

然しながら、師承の通り三十年に及ぶ長い教育の歩みにも、かわらぬ本校にはまだに講堂兼体育館の施設がありません。申すまでもなく、講堂は学校教育に欠くことの出来ない最も重要な施設の一つであります。本校独自の集団的指導訓練を始め、施設教育、さらには年間三分の一に及ぶ雨天における体育授業にも、重大な教育上の支障を来し、特に入学、卒業式、その他重要な行事を挙行政する際に、露天または遠距離の小学校講堂を借用しては、現状であります。ここに創立三十周年を迎えるに当り、本校多年の宿願であります講堂兼体育館建設を記念事業として出直し、かねてより県当局へ陳情を重ねて参りました結果、今回漸く本校の意向を御理解いただき、昭和四十年度予算に上される見通しがつくに至りました。これが実現のため当局におきましては、建設費(概算二百三十一万五千八百円)は抽出していただけると、存じます。残額八百万円を内容整備費二百万円、計一千万円を資金を必要といたします。本校では待望の夢実現のため、全職員生徒は勿論のこと、PTA、同窓会といたしましても「まづ足もとから」とことが協力を万端一致で決断し、職員、生徒もそれぞれ微力を出させていただきます。然しながら、これだけの力では到底及ばず、どうしても大方の御助力を仰がなければならぬ実状でございます。各方面御多額の御手は存じますが、何卒事即賢者の上本校多年の宿願であります講堂兼体育館の建設に御協力を賜りますようお願い申し上げます。

昭和四十年一月

寄付趣意書(一部抜粋)

## 盲聾唼学校の変遷

本県における盲聾唼教育は、明治27(1894)年10月、五宝翁太郎氏により寺町の安住寺において、数名の盲聾生徒を集め特別授業を行った時から始まったとされる。その後、幾多の変遷を経て、昭和8(1933)年10月、名東郡八万村(現・南二軒屋町)に新校舎が完成し、以後この地から県下の盲聾唼教育は大きく発展していった。盲聾唼学校では一般教養としての「普通教育」とともに、按摩・マッサージ・鍼灸・理髪・裁縫・手芸・家事などの技術習得に力点が置かれた。また戦時中の学徒動員体制下では、勤労働員・治療奉仕などの活動も積極的におこなわれた。

戦後、米国教育使節団の報告書を受け、昭和22(1947)年4月に学校教育法が制定され、盲聾教育は義務制となった。さらに、個々の障害に応じた教育を実施する方針により盲聾唼学校は分離され、翌年4月、徳島県立盲学校・徳島県立聾学校が開設された。その後、平成19(2007)年4月の学校教育法の改正により、すべての学校において障害のある幼児・児童・生徒の教育を支援する特別支援教育がスタートし、盲・聾学校は、新たに平成26(2014)年4月より徳島視覚支援学校・徳島聴覚支援学校として再出発している。



盲部鍼按実習の様子

### 「校外行事実施届」(平成7(1995)～13年)

今日の社会は様々な支援を必要とする社会的弱者にとって課題は多い。そのため盲聾学校生の生活活動領域は限定的となり、社会とのつながりも希薄になりやすいと言われる。このような状況を打破するため、盲聾学校では各種校外学習を実施している。これは、生徒たちの生きる力を高めるとともに、社会の現実と課題を学ぶ生きた学習であった。

#### ①平成8年2月「文化の森の見学」

歩行訓練を兼ねて図書館を訪問。貸出業務などの仕事を通して図書館の機能と役割を学ぶ。

#### ②平成11年9月「城南高校文化祭の見学」

同世代の活気あふれる刺激的な文化祭に触れ、これからの学園生活で生かすことを目指す。

#### ③平成13年2月「徳島県庁・県議会の見学」

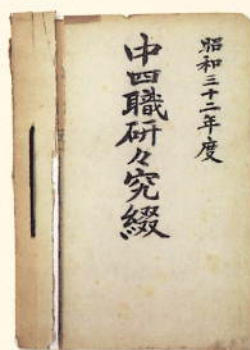
高等部普通科公民科の国民主権・地方自治・地方行政などの分野の学習を深める。



「校外行事実施届」(表紙)

### 昭和三十二年度 中四職研々究綴「理容技術と体育」

この資料は昭和32(1957)年度の中国四国職業教育研究大会の資料を綴ったものである。ここには、開催校である香川県立ろう学校の「木工図案の要点」をはじめ、中四国9県の参加校から16件の職業教育充実のための様々な取り組みや、実践上の課題などが報告されている。徳島県立聾学校の「理容技術と体育」は、体育教科の様々な取り組みを通じて生徒たちの体力の増大を図り、理容技術の習得・向上に役立てようとする意欲的な研究である。正しい技術の習得・向上には体力・運動能力面の改善(特に握力)が欠かせないとして、そのための具体的な取り組みや研究の成果、課題をまとめている。



「中四職研々究綴」(表紙)

### 平成3～4年度 学科新設関係文書綴・普通科設置検討委員会資料

近年の教育機器の開発はめざましく、教育環境も整備され、今まで以上に学力の向上が可能となってきた。この状況を受け、聾学校でも一般科目に的を絞った普通教育充実が叫ばれはじめ、進路における多様性を確保し、高等教育機関への進学に対応するため、高等部普通科新設の要望が高まってきた。この動きに呼応し、聾学校内に徳島県立聾学校普通科設置検討委員会、保護者による検討委員会が設置され、様々な角度から設置に関する資料収集・検討がなされていった。当時、全国の聾学校高等部では普通科の設置は58%に達し、また保護者に対するアンケートでは93%が普通科設置を望んでいたとされる。



「普通科設置検討委員会資料」(表紙)  
「学校新設要望書関係綴」(表紙)

## 小学校から預かった公文書

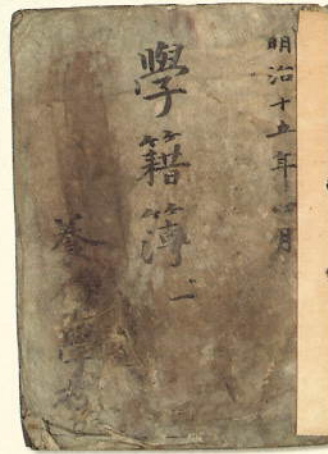
### 学籍簿とは

学校の公文書の内、最も一般的な文書として「学籍簿」がある。学校に在籍する児童生徒の氏名・生年月日・原籍・現住所・学業成績・身体および行動の記録など、教育上必要な事項を記入する帳簿である。明治33(1900)年から全国統一の様式によって実施され、昭和25(1950)年に「指導要録」と改称した。

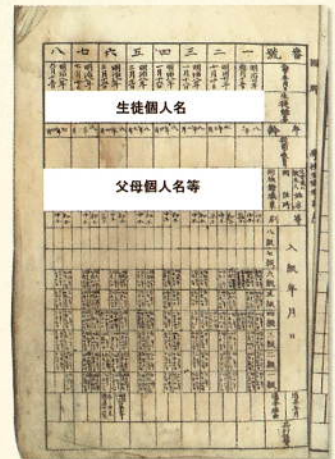
その学校に在籍したことを証明するための原簿であり、学校における戸籍簿的な性格を持ち、学校において永年保存とされていたが、昭和31(1956)年以降「指導要録」の保存期間は20年と定められている。しかし、児童・生徒全員の在学を証明する唯一の文書であり、安易に廃棄しにくい文書のひとつである。内容は全てが個人情報に属す文書であるが、その地域に住む子供たちの状況をほぼ漏れなく知ることができる大変貴重な歴史資料である。

文書館は藍住町立藍住南小学校が保管していた24冊の学籍簿を預かっている。明治15(1882)年以降、養徳小学校と公立奥野尋常小学校が作成し、昭和16(1941)年に改称した藍園国民学校の時期に整理をして、表紙などを付け替えたようである。藍住南小学校の沿革を見ると、明治7(1874)年に私立徳命小学校と私立奥野小学校が設立され、明治14(1881)年に2校が合併して公立養徳小学校が設立した。その後明治19(1886)年に養徳小学校は奥野尋常小学校と改名したとある。

明治15年3月から同34(1901)年3月の卒業生を掲載した最初の学籍簿は、明治7年入学の児童の記録から始まっており、同年に藍住町内に初めて設立された小学校の児童についての記述が残されている。



養徳小学校(現・藍住南小学校)  
「学籍簿」(表紙)



「学籍簿」最初の頁

あきのかみ

### 明神尋常小学校の「臨海学舎」

鳴門市瀬戸町、ウチノ海に面した鳴門市立明神小学校から公文書300冊余を預かっている。昭和初期からの学校日誌やPTAの記録、運動会や学芸会の記録など学校の多彩な活動を知る公文書として貴重である。

預かった文書の中から、明神小学校の特色ある戦前の教育活動である臨海学舎を取り上げる。昭和7(1932)年、戦争を目前にした明神小学校では、村内の日出神社境内に臨海学舎を開設し、5、6年生の児童100名余を、夏休みが始まる前の7月19日から10日間通わせた。翌8年からは4年生も加え160名余と対象を拡大させ実施した。その特徴は、事前に作成し児童に配布した「臨海学舎教本」をもとに指導を行うことと、充実した鍛錬としての水泳指導である。教本冒頭の設立趣意には「夏は全てのものに溢る生命を恵んでくれます」とあり、大自然の慈恵を享受して肉体・精神を伸ばし、詩的郷土を背景に教科学習を行い、規律ある社会共同生活の訓練場とするという目的が書かれている。忍び寄る全体主義的な戦時下の教育と、美しい郷土教育が一体となりつつあることが分かる。この神社と一体となった臨海学舎は、戦後まで継続されることはなかったようである。

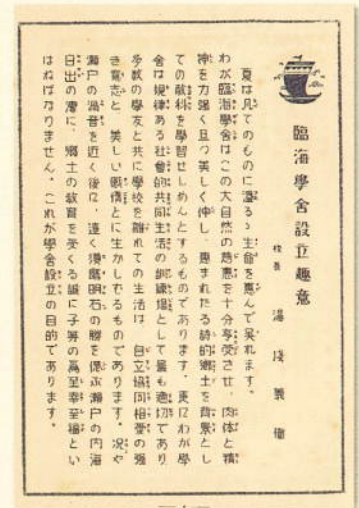
#### 臨海学舎の日程

|         |            |
|---------|------------|
| 朝7時     | 神社集合参拝     |
| 8時～10時  | 学科指導       |
| 10時～11時 | ラジオ体操・準備運動 |
| 11時～12時 | 水泳指導       |
| 12時～1時  | 昼食・鑑賞指導    |
| 1時～2時   | 昼寝(午睡)     |
| 2時～4時半  | 水泳指導       |
| 午後5時    | 神社にて解散     |

明神尋常小学校「明教」(昭和9年)より作成



「臨海学舎教本」(表紙)



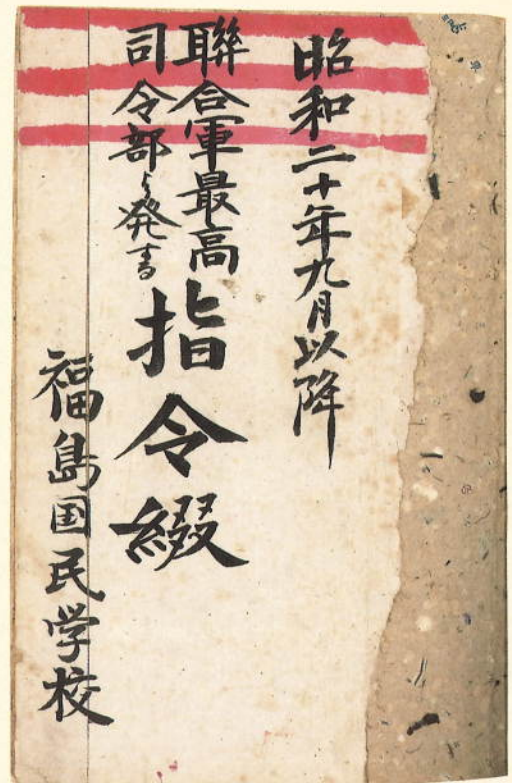
「臨海学舎教本」  
臨海学舎設立趣意書

## 学校の公文書に見る新しい時代の到来

### 福島国民学校「連合軍最高司令部より発する指令綴」

教育の自由主義化を占領政策の重要な柱と位置づけていたGHQは、昭和20(1945)年10月から12月にかけていわゆる「四指令」を発し、軍国主義・国家主義的要素を教育現場から一掃することを日本政府に求めてきた。

このようなGHQの指令や覚書(いわゆるマッカーサー指令)は、それを受けた日本政府の法令や通達などのかたちで、地方公共団体や教育現場に伝えられた。徳島市の福島国民学校(現・福島小学校)に残されていた「昭和二十年九月以降 連合軍最高司令部より発する指令綴」は、このようなマッカーサー指令を同校で綴ったものである。ここに綴られている昭和20年9月28日付けの「終戦ニ伴フ教科用図書取扱方ニ関スル件依命通牒(教科書墨塗り指令)」「(この指令自体はマッカーサー指令に先立って文部省が出したものに)始まる「銃剣道・教練の廃止」「教育と神道の分離」「修身・国史・地理の授業停止と教科書回収」「復員教職員の授業担当留保と適格検査」「米国軍政部の学校視察」などの指令や通達は、戦後の教育改革を、その最前線に立つ小学校の視点から伝える貴重な資料といえる。



「連合軍最高司令部より発する指令綴」(表紙)

### 徳島県立工業学校「工場日誌」

戦争末期から終戦直後の学校現場の状況を垣間見ることができなのが、徳島県立工業学校(現・徳島科学技術高等学校)建築科の実習関係の校務日誌である「昭和二十年度 工場日誌 建築科」である。

これを見ると、1学期には建築科の4年生は徳島市万代町にあった徳島造船へ、3年生と第二建築科2年生は松茂にあった海軍施設部へほぼ毎日勤労働員に赴き、その他の生徒も陣地構築などに動員されている。応召する教員の壮行会も行われており、空襲警報により授業開始を遅らせたり切り上げたりすることも度々であった。

8月15日にいわゆる「終戦の玉音放送」が行われ、長かった戦争の時代が終わりを告げた。県立工業学校でも海軍施設部での動員が8月21日で、徳島造船での勤労働員が8月30日で終わっている。9月14日には終戦の詔勅奉読式が行われており、9月19日以降、応召していた教員の帰還が続く。2月1日には奉安殿に納められていた御真影の奉還が行われるなど、学校現場にも新しい時代が押し寄せていたことがうかがわれる。その一方で、10月30日の教育勅語下賜記念式や11月3日の明治節(明治天皇の誕生日)拝賀式、毎月22日の「青少年学徒ニ賜リタル勅語」奉読などはそれまでと同様に挙行されている。

このように、それぞれの学校は新しい時代へと少しずつ踏み出していったのである。



「工場日誌 建築科」(表紙)

## 展示資料一覧

| No.                             | 標 題                                  | 年 代           | 資料番号        |
|---------------------------------|--------------------------------------|---------------|-------------|
| <b>1. 徳島県立工業学校・徳島県立阿南工業高等学校</b> |                                      |               |             |
| 1                               | 暴風雨被害調書                              | 昭和 12(1937)年  | K200800291  |
| 2                               | 昭和二十年度 報告書類綴                         | 昭和 20(1945)年  | K200800170  |
| 3                               | 昭和二十・二十一年度 本廳往復書類綴                   | 昭和 21(1946)年  | K200800193  |
| 4                               | 昭和三十七年度 職員会議録                        | 昭和 37(1962)年  | K201100120  |
| 5                               | 昭和三十七年度 教務日誌                         | 昭和 37(1962)年  | K201100119  |
| <b>2. 徳島県の水産教育</b>              |                                      |               |             |
| 6                               | 『濤聲』第十一号                             | 昭和 11(1936)年  | イワ202066    |
| 7                               | 阿州丸代船建造計画書                           | 昭和 38(1963)年  | K200900336  |
| 8                               | 体育館建設寄付関係書類綴                         | 昭和 39(1964)年  | K200900340  |
| 9                               | 50周年記念事業期成同盟会                        | 昭和 60(1985)年  | K200900365  |
| 10                              | 「ありがとう阿州丸～JIJY～」より徳島県立水産高等学校大型実習船の変遷 | 平成 20(2008)年  | G200701556  |
| <b>3. 盲聾啞教育の変遷</b>              |                                      |               |             |
| 11                              | 落成記念写真帳                              | 昭和 8(1933)年   | イワム07285    |
| 12                              | 徳島県立盲聾啞学校一覧表                         | 昭和 8(1933)年   | イワム03782    |
| 13                              | 平成7～13年度 校外行事実施届                     | 平成 13(1996)年  | K201700028  |
| 14                              | 昭和三十二年度 中四職研々究綴                      | 昭和 32(1957)年  | K201400035  |
| 15                              | 平成3～4年度 学科新設関係文書類綴                   | 平成 4(1992)年   | K201300604  |
| <b>4. 小学校から預かった公文書</b>          |                                      |               |             |
| 16                              | 学籍簿(明治15年3月から明治34年3月卒業 奥野尋常小学校)      | 明治 15(1882)年～ | アイソ00011    |
| 17                              | 明教(明神尋常小学校)                          | 昭和 9(1934)年   | アケノ00006001 |
| 18                              | 臨海学舎教本下巻(明神尋常小学校)                    | 昭和 8(1933)年   | アケノ00006003 |
| 19                              | 臨海学舎教本下巻(明神尋常小学校)                    | 昭和 10(1935)年  | アケノ00006004 |
| <b>5. 戦争と学校</b>                 |                                      |               |             |
| 20                              | 連合軍最高司令部より発する指令綴(福島国民学校)             | 昭和 20(1945)年～ | G199502061  |
| 21                              | 初等科国語六(墨塗り教科書)                       | 昭和 18(1943)年  | G199500541  |
| 22                              | 昭和二十年度 工場日誌 建築科(徳島県立工業学校)            | 昭和 20(1945)年  | K201300578  |
| <b>6. 壁面</b>                    |                                      |               |             |
| 23                              | 那賀郡立実科高等女学校舎予定図                      | 明治 44(1911)年  | フキタ01330    |
| 24                              | 徳島県学校分布図                             | 昭和 27(1952)年  | イワム01944    |
| 25                              | ポスター「撫養小学校創立八十周年」                    | 昭和 28(1953)年  | イワ400531    |
| 26                              | 阿州丸完成図(青焼き)                          | 昭和 40(1965)年  | K200900351  |
| 27                              | 徳島県立徳島中学校 玄関正面                       | 昭和 8(1933)年   | S200000316  |
| 28                              | 八万中学校 運動会                            | 昭和 33(1958)年  | S200001619  |
| 29                              | 里浦小学校 旧鳴門駅前聖火リレー歓迎鼓笛隊                | 昭和 39(1964)年  | S200002694  |
| 30                              | 里浦南小学校 授業参観                          | 昭和 30(1955)年頃 | S200003021  |
| 31                              | 応能尋常高等小学校 教練                         | 昭和 10年代       | S200003840  |
| 32                              | 平島尋常高等小学校 楽器が寄付され初の鼓笛隊編成             | 昭和 13(1938)年  | S200006169  |
| 33                              | 富田小学校 学校給食                           | 昭和 30(1955)年頃 | S200900548  |

※資料保存のため展示品の一部を替えることがあります

第 64 回企画展「学校の公文書」

令和 4 年 8 月 2 日発行

☆担当職員によるやさしい展示解説  
 日時：8月21日(日)・9月19日(月・祝)・10月13日(木) 午後1時30分から  
 会場：文書館2階講座室・展示室

編集・発行 徳島県立文書館 印刷 星印刷株式会社  
 〒770-8070 〒770-0936  
 徳島市八万町向寺山 徳島市中央通2丁目19  
 電話 088-668-3700 電話 088-652-7508  
 FAX 088-668-7199 FAX 088-623-9698